

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

小児消化管感染症診療ガイドライン 2024

日本小児感染症学会／日本小児消化管感染症・免疫アレルギー研究会／小児消化管感染症診療ガイドライン作成委員会（委員長 津川毅 札幌医科大学医学部小児科）
株式会社診断と治療社 2024 年 11 月 26 日発行

Minds 掲載 無

Grading Scale of Strength of Evidence

- A(強) 効果の推定値が推奨を支持する適切さに強く確信がある
- B(中) 効果の推定値が推奨を支持する適切さに中程度の確信がある
- C(弱) 効果の推定値が推奨を支持する適切さに対する確信は限定的である
- D(非常に弱い) 効果の推定値が推奨を支持する適切さにほとんど確信できない

Grading Scale of Strength of Recommendation

- 1(行うこと／行わないことを)強く推奨する→推奨する
- 2(行うこと／行わないことを)弱く推奨する→提案する
- 3 推奨なし

■1 漢方(五苓散, 生姜)

疾患:

小児の感染性胃腸炎

CPG 中の Strength of Evidence

D(非常に弱い) 効果の推定値が推奨を支持する適切さにほとんど確信できない

CPG 中の Strength of Recommendation

2(行うこと／行わないことを)弱く推奨する

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ1-4 小児の感染性胃腸炎に対して制吐薬投与は推奨されるか?』の要約に以下の記載がある。

『今回、国内で利用できるメクロプラミド、ドンペリドン、漢方(五苓散、生姜)について検討した。メクロプラミドのみが嘔吐の持続する患者の割合を減少させることが示唆されたが、投与量や投与方法の違いまでは検討できず、また、効果判定の時間が研究により異なるなどの要因があり、エビデンスの確実性が非常に低く真の効果といえるか判断ができなかった。』

『ドンペリドン、漢方に関しては効果が認められなかった』

■2 五苓散、生姜

疾患:

小児の感染性胃腸炎

CPG 中の Strength of Evidence

D(非常に弱い) 効果の推定値が推奨を支持する適切さにほとんど確信できない

CPG 中の Strength of Recommendation

2(行うこと／行わないことを)弱く推奨する

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQ1-4 小児の感染性胃腸炎に対して制吐薬投与は推奨されるか?』の要約に以下の記載がある。

『漢方薬には、五苓散と生姜が含まれていたが、これらの投与(3RCT; n=590, RR 0.60, 95%CI 0.34-1.07)(図 4)でも嘔吐が持続する患者の割合は減少しなかった。』

■3 五苓散

疾患:

小児の感染性胃腸炎

引用など:

日本小児救急医学会診療ガイドライン作成委員会(編):エビデンスに基づいた子どもの腹部救急診療ガイドライン 2017. 日本小児救急医学会, 2017.

有効性に関する記載ないしその要約:

『2 小児消化管感染症の治療 3 制吐薬、止痢薬』の『2 制吐薬の種類と作用機序』の項に以下の記載がある。

『日本ではほかに、漢方薬が用いられることがあり、主に五苓散の使用報告が多い』